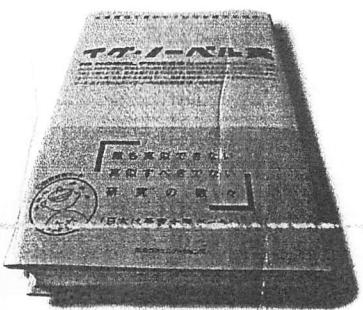
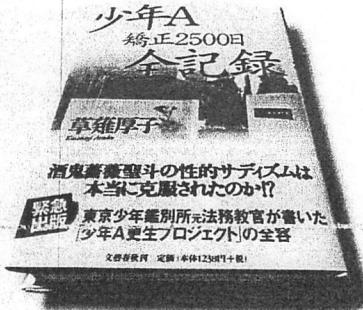


糸井さんのひとめ惚れ

秋山さんのひとめ惚れ

ダ・ヴィンチのひとめ惚れ



『少年A 燃正2500日 全記録』

草薙厚子 文藝春秋 1300円

装丁：石崎健太郎

編集：松井清人

スキャンダリズムではなく“ちゃんと書いた本”だ。こんな本が出るということに少々驚いた。

『ドグラ・マグラ(上・下)』

夢野久作 角川文庫 上525円、下609円

装丁・装画：米倉齊加年

編集：佐藤秀樹

個人的にはうちの本棚にこの本がないのは、アルバムの写真が抜け落ちているのと同じ意味。

『イグ・ノーベル賞 大真面目で奇妙 キレツな研究に拍手!』

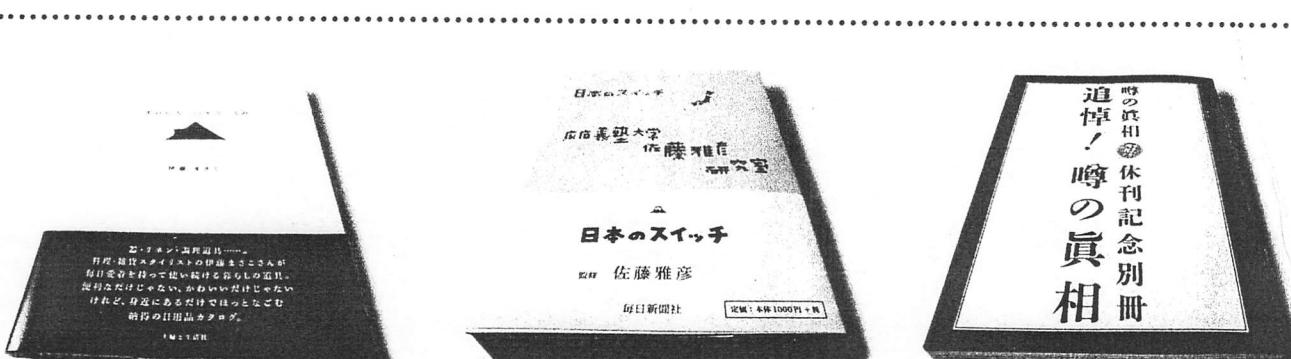
マーク・エイブラハムズ/著 福嶋俊造/訳

阪急コミュニケーションズ 2520円

装丁：轟田昭彦、坪井朋子

編集：小泉伸夫、江口絵理

表題はヘンな研究や発明を評価する賞の名称だが、こういう本が売るのはいいことと思う。



『まいにち つかう もの』

伊藤まさこ 主婦と生活社 1365円

デザイン：有山達也、飯塚文子(アリヤマデザインストア)

写真：新居明子

編集：野々瀬広美

なるほどなあと思った本。タイトルと全体のデザインが調和している。満載している感じもよい。

『日本のスイッチ』

慶應義塾大学佐藤雅彦研究室/著 佐藤雅彦/監修

毎日新聞社 1050円

装丁：石川将也(佐藤雅彦研究室)

編集：永上 敬

本になったときちゃんとまとめて読みたいと思っていた企画。本の大きさや手軽さが心地よい。

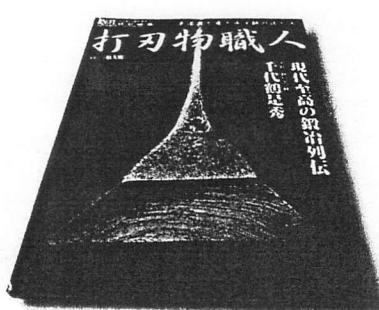
『噂の真相休刊記念別冊 追悼！ 噂の真相』

噂の真相 1000円

アートディレクション：川端幹人+清水肇

編集：噂の真相編集部

派手で目立っていた従来の「噂の真相」の表紙とは対極にあるデザインに惹かれた。



『ナイフマガジン特別編集 打刃物職人』

ワールドフォトプレス 2000円

装丁：小柳英隆(モノマガジン商品研究所)

写真：三原久明

編集：ナイフマガジン編集部

ホームセンターで電動ドリルを見る楽しさ。

よくこんな企画にゴーサインが出たものだと感心。

『東京人2004年5月号 特集 2004年版 東京地下鉄を探検する!』

都市出版 900円

装丁：デザイントリム

編集：東京人編集室

「東京地下鉄を探検する」という特集。

小ネタに至るまで気配りが行き届いていると思う。

『凹村戦争』

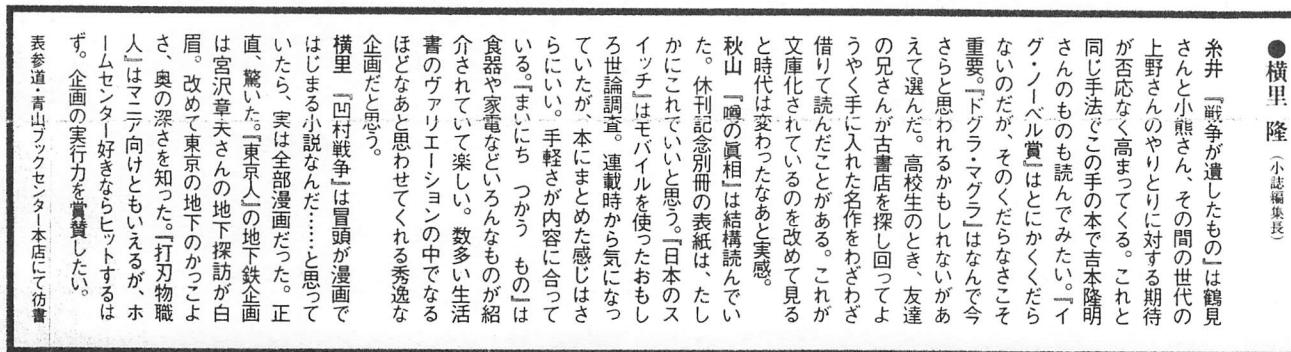
西島大介 早川書房 1365円

装丁：岩郷重力+WONDER WORKZ.

編集：塙澤快浩

表紙の「メタとネタと萌え」というコピーが気に入った。

表紙の絵の感じもとてもいい。



●糸井重里 「戦争が遺したもの」は鶴見さんと小熊さん、その間の世代の上野さんのやりとりに対する期待が否応なく高まってくる。これと同じ手法でこの手の本で吉本隆明さんのものも読んでみたい。「イグ・ノーベル賞」はとにかくくだらないのがモテるかもしれないが、そのくだらなさこそ重要な。『ドグラ・マグラ』は今までさらと思われるかもしれないが、選んだ。高校生のとき、友達の兄さんが古書店を探し回つてようやく手に入れた名作をわざわざ借りて読んだことがある。これが文化化されているのを改めて見る時代は変わったなあと実感。

秋山 「噂の真相」は結構読んでいた。休刊記念別冊の表紙は、たしかにこれでいいと思う。「日本のスイッチ」はモバイルを使ったおもしろ世論調査。連載時から気になっていたが、本にまとめた感じはさらにいい。手軽さが内容に合っている。「まいにち つかう もの」は食器や家電などいろんなものが紹介されていて楽しい。数多い生活書のヴァリエーションの中ではじまる小説なんだ……と思っていたら、実は全部漫画だった。正直、驚いた。「東京人」の地下鉄企画は宮沢章太さんの地下探訪が白眉。改めて東京の地下のかっこよさ、奥の深さを知った。「打刃物職人」はマニア向けともいえるが、ホームセンター好きならヒットするはず。企画の実行力を賞賛したい。

取材・文／田中裕 撮影／首藤幹夫

●糸井重里 コピーライター
●秋山昌義 アートディレクター
●横里隆 小説編集長